

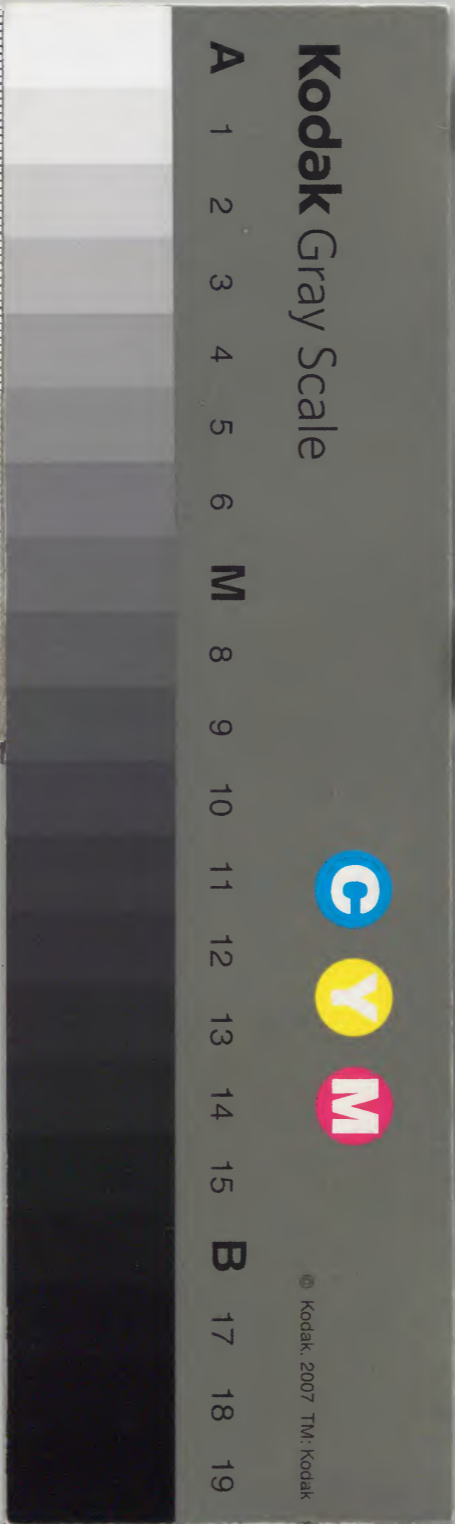
唐土割蒙圖彙

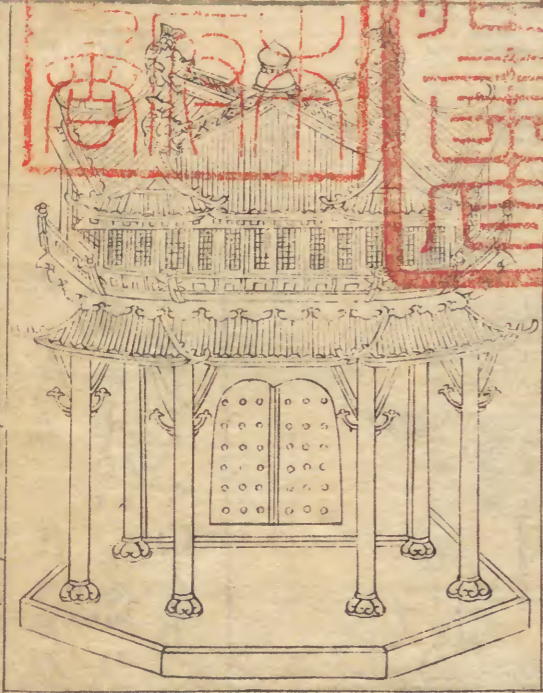
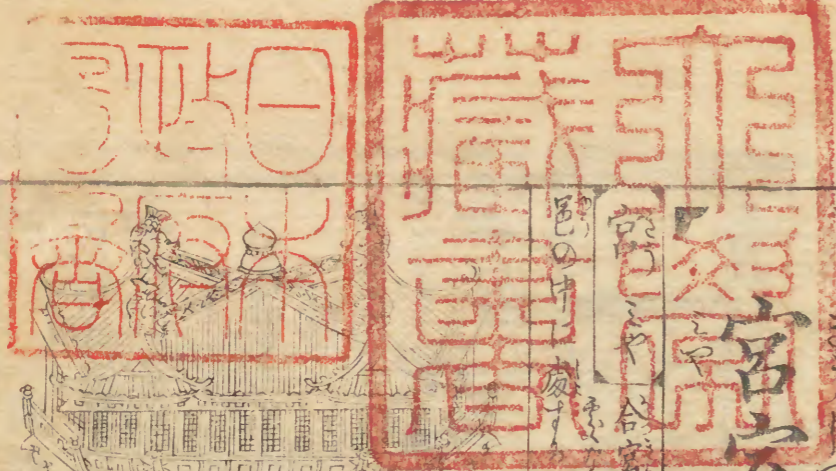
宮室三

和書門類			
一八六三七號	一八二函	一三架	一五冊

內閣文庫		和書類
一八六三七號	一八二函	一三架
一五冊	一四函	二四架

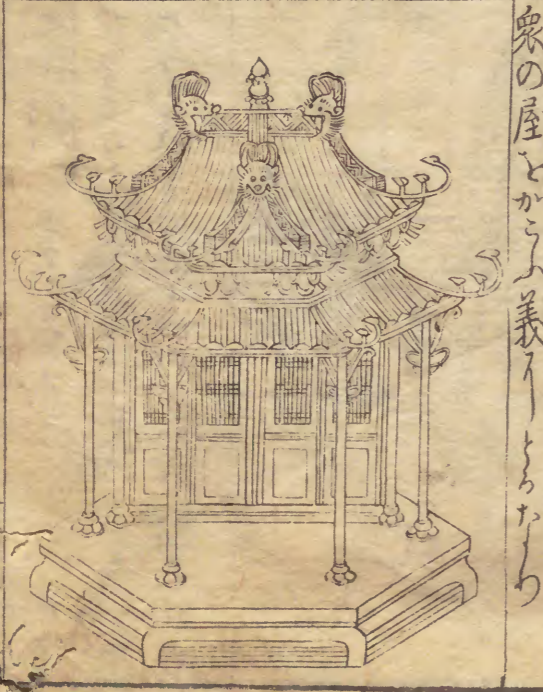
內閣文庫		
番號	和	18637
冊數	15	(4)
函號	184	359





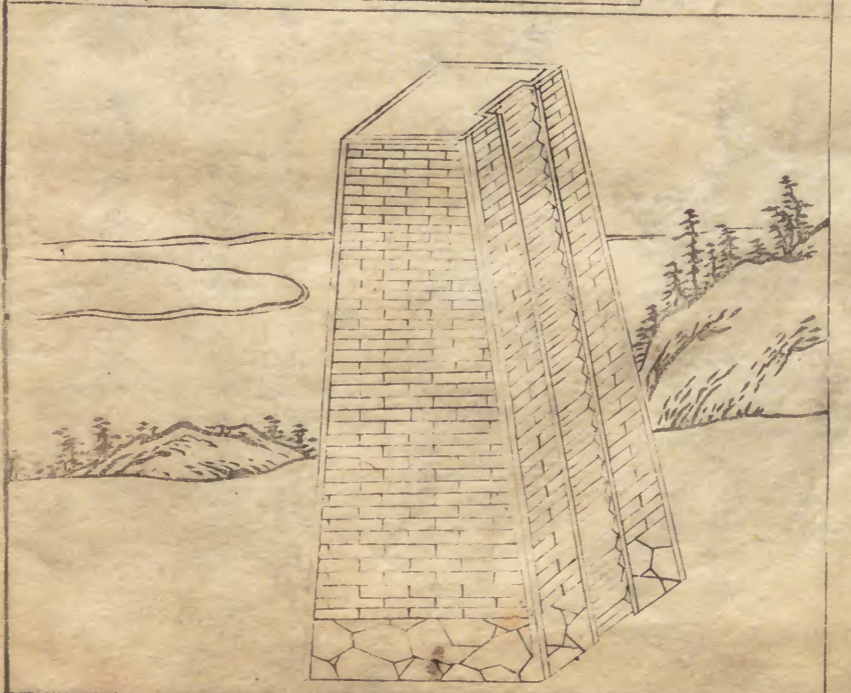
易の
合宮ハ英帝のころめて造り
り宮ハ中なりとて都
かとりていなり

唐土訓蒙圖彙卷之七 草一 文和符附



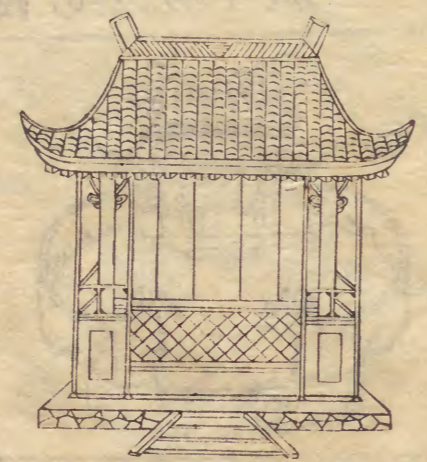
殿つりの
前殿ハ秦の始皇帝のころ
ゆきけらるる也殿ハ軍の殿のびと
衆の屋とから義ありとらたり

閣
阿闍の武帝の所
白鳳何閣の巢くといへり閣ハ
塔乃うは令一重あるものなり
臺
其ハ黃帝乃
つらとら高くて四方を觀
わがはとりよあわるとハ榭とよ



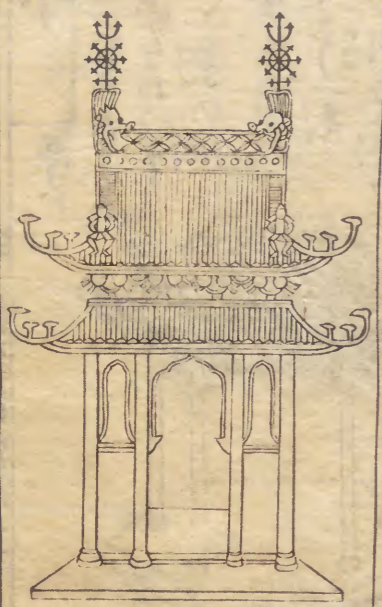
堂

明堂ハ黃
帝の所
取なり明
の字乃かハ
礼義ハ管
と明をす
か意なり



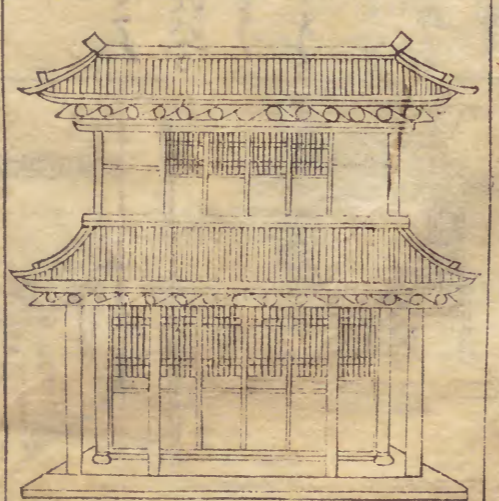
觀

觀ハのぐとら
の意なり又
祭帝元
祭帝元
祭帝元



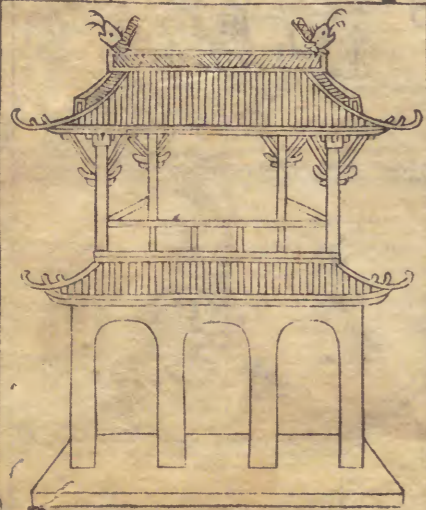
榭

方士漢の武帝に
五城十二
樓と爲く
神人と候
と武帝
これと信
して榭樓
とつらと
とつらと
とつらと



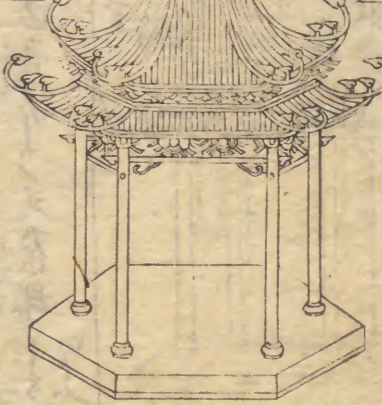
闕

門闕と
さくさく
と立柱と
中に門を
わきとら
り中乃
りけり意
なり



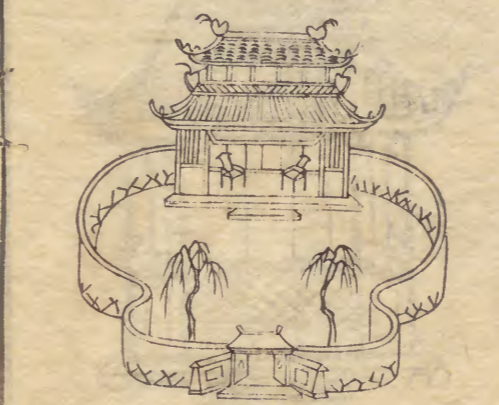
亭テイ 亭テイ

亭の字の意は
とゆりあつま
不之秦の法
十里一亭
あり形と亭の
長とゆりなり



識シチ 窓

舎なり他國
より来るもの
賓使なりと
りてなりは
つつらなり
和なり使者
舎なり

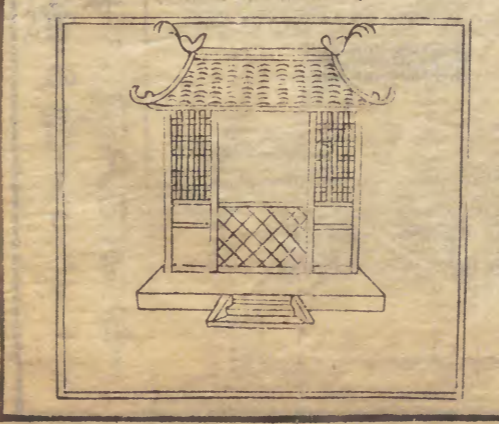


庭テイ 堂ドウ

庭の門は
同と庭といふ
黄帝大庭の
館におきり
庭の名黄帝
いふなり

宅タク 窓

孟子かたに
五畝の宅
ゆりに家を
りては
つ宅のあり
は森とゆう
なり



齋サイ 漢の

宣帝齋居と
事と変なり
つら此名あり
及之殷仲堪
池のなりは
屋とて齋
所なり



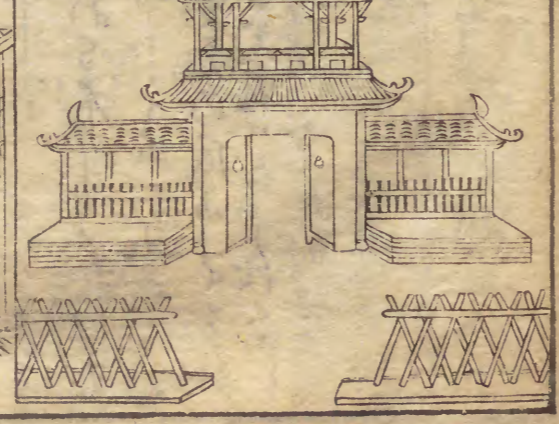
堵ト 虞の

時より改りて
人として常穴
とて一む一丈
と版と堵と
版と堵と
史記なり



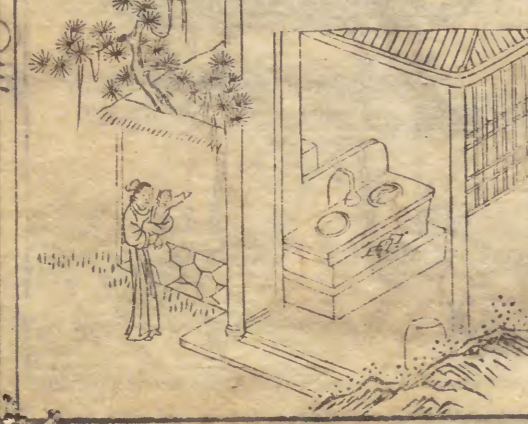
廡ウ 百官の居

所と府と
つら廡
官廡
府とに
同



庭テイ 義始

と制して
犠牲と
供
時より



闕殿

上りのうひ
人の水とほ
さかにうら
さかにこれ
約欄と子園
亭の中にあ
欄ありあめ
園接心し
帝のつと
し漢の李
電の殿は
人造火とい
て電ハ今の
うゆるし

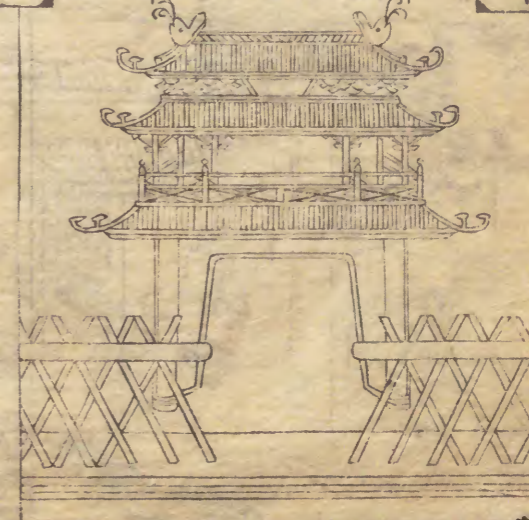


行馬

ると行
下とよ
今の好
又る場
同

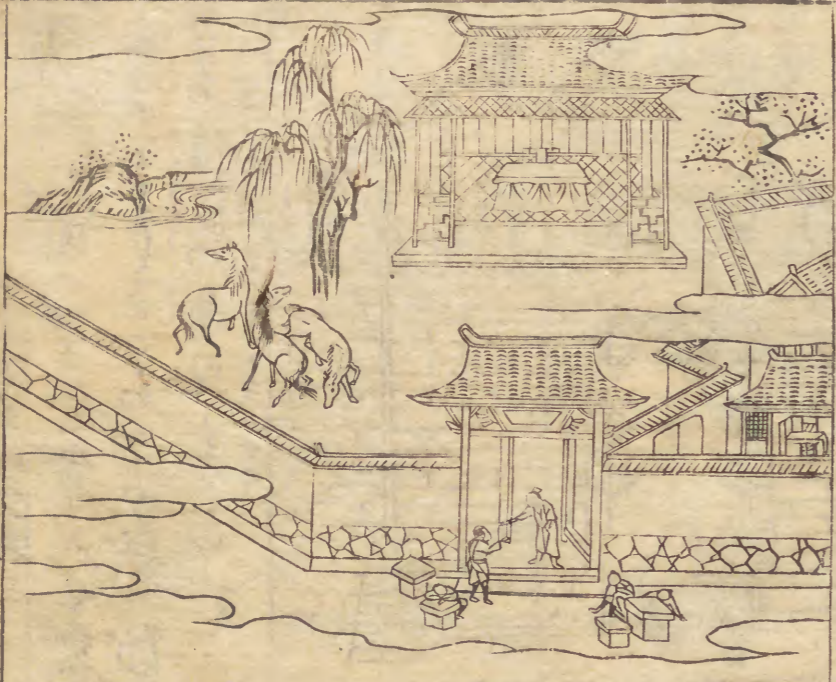
華表

神廟のあにわる木なり和國
身居に似て同しは和国の名
のしは上古質素の風ありて
しり門なり華表ハるくは
くは古今注にア々々わは同ハ古今注
のありむいあり



駟

傳舎之傳ハ今の御駟
歩馬急遽とて即ちゆきと敷
孟子は徳之流行速於置
郵而傳命といふも是に
百里なり



郷

周礼は百家のうらと郷
とを郷とら向うく衆人のむら
といふ意し又万二千五百家とを郷
とらなり



關塞 關塞の圖は城と家が入るを樂
非常とまりとせりなりなり塞の隔
なり遠征の邊のつととつと
○塞ノ和訓コレヲトヨムナリ



星鋪 肆のうらみ筈とりらひ
彩の並成りせりも或新又の
地とあへてひさくを別と農難
うらみの繁々として故に星貨
浦といふなり



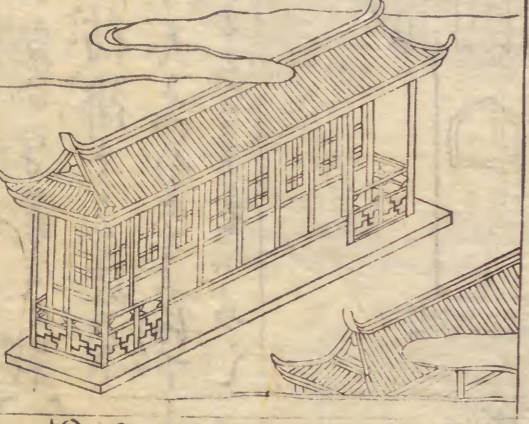
坊 坊の方
と深と
文廟乃
名漢の
時より
なり



晁公室
宮中乃
織物と
深練を
つとと
なり



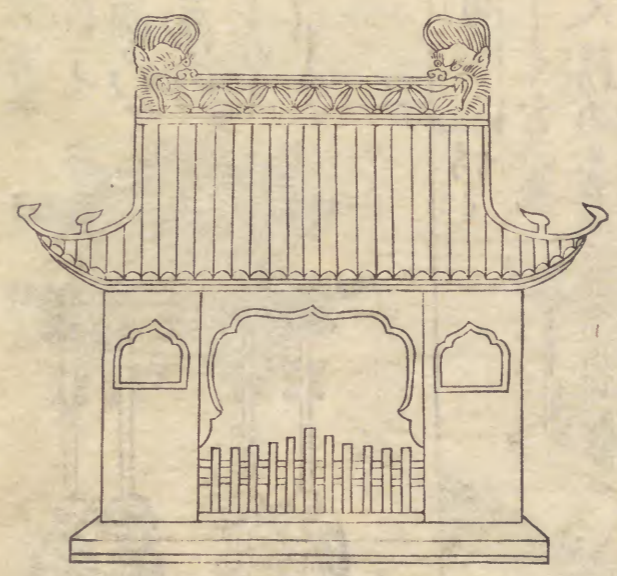
房 房の義
又深の義
少て風雨燥
湿と防ゆ
宮室の制
中央と心室
と左右を
房と



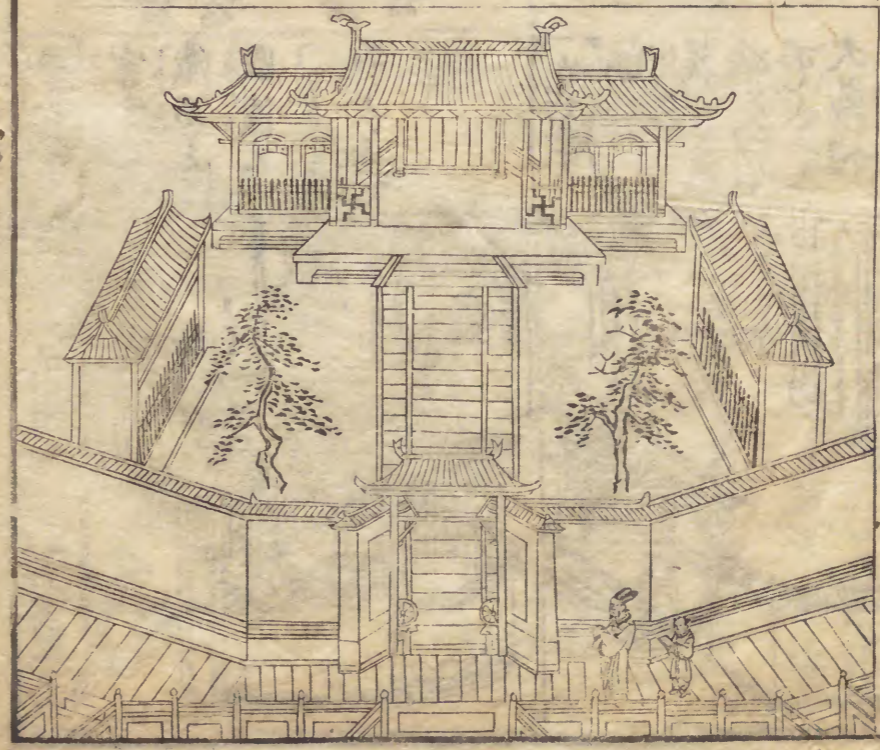
帷薄 帷の慢也
為の義
ぬ人の居
不と
大戴禮
不修と
なり



廟たま 廟たまハ顔かほの字義ごよて先
人の靈れい貌がうと彷彿ふたふたとさる故ゆゑなり
びりびり美み帝てい天てん子のこかりかり下した
遊あそ慕ぶくく祠やしろとさる其そのくくめめし

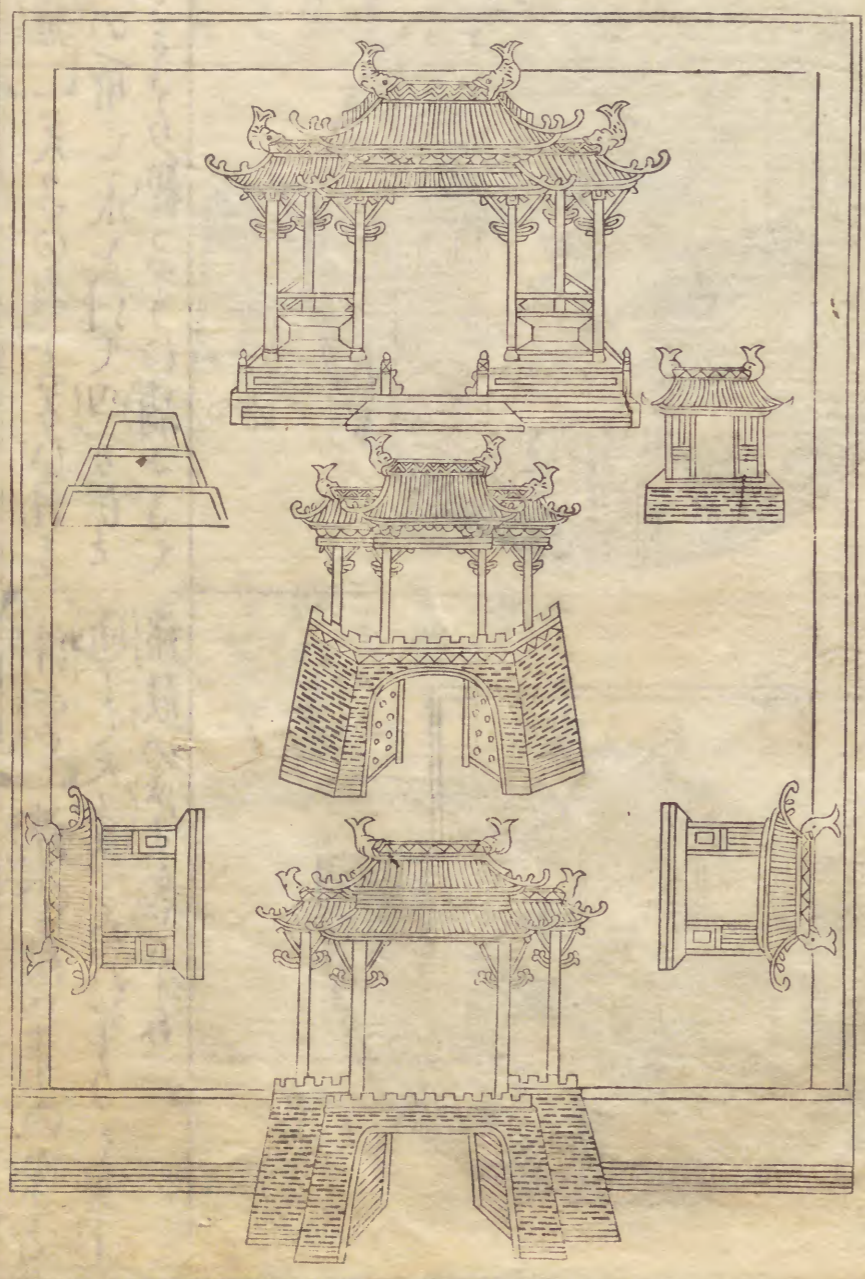


學がく 學がくハ師し學校がくなり上天てん子こ
より下した庶しよ人じんよりよりささるさるるととり
而しかのの學がく文ぶん所しよなり

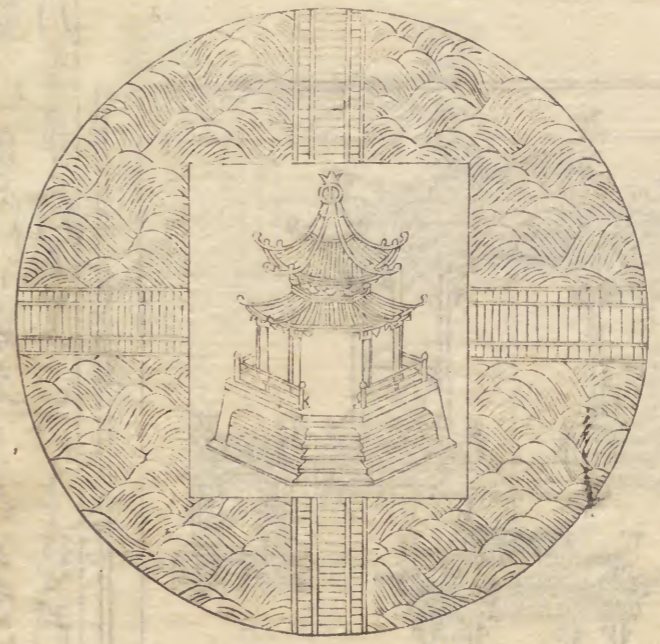


皋門こうもん 應門おうもん

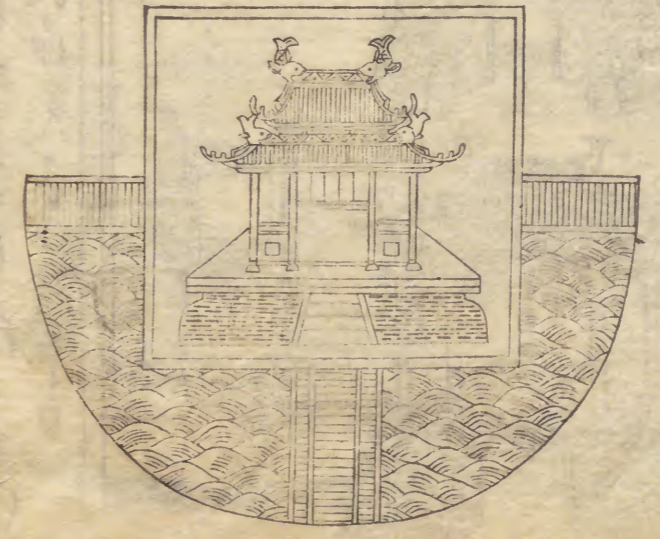
びりびり大王たいおう岐きよりよりつつままひひ室むろと築つくるる廟たまととははり
皋門こうもん 應門おうもんと建たつつり古こ公こう稟れい父ふののらら大王たいおうとと遊あそ称せうくく王わうのの郭かく
門もんをを皋門こうもんとといいふふ正門せいもんをを應門おうもんとといいふふ而しか天子てんしのの門もんなり



辟雍 天子の射と字ひれを
 舟の形に水と引て四方がひと
 しくこまきり観るやうに橋あるこ



泮宮 泮の義ハ半の字と
 通して天子乃交れ死るうここれ
 諸侯の世子舎なり



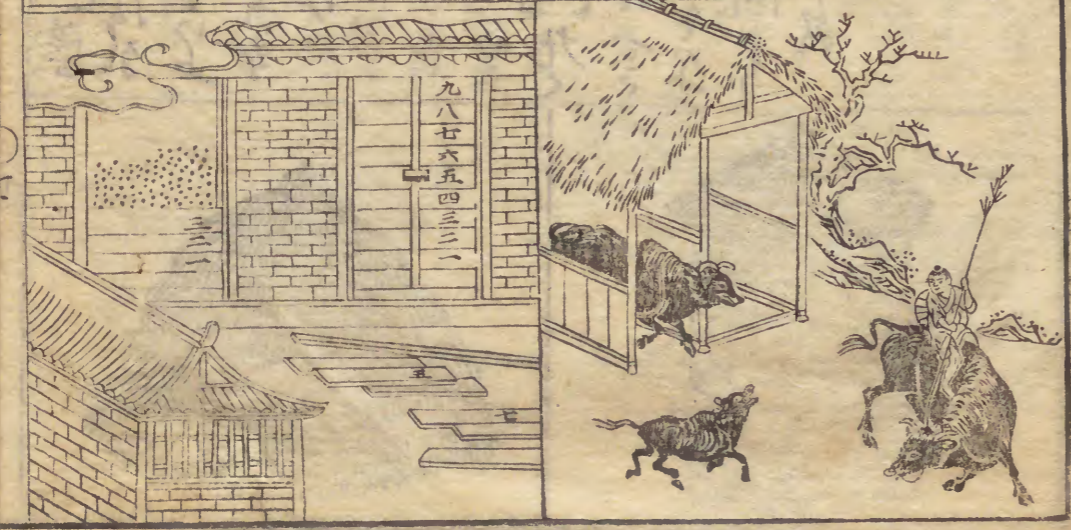
田廬

民のふるま
 牛の形大を
 畜ふと將
 五畝の
 宅二畝半と
 庭と二畝
 半を田と以
 ち制なり
 田圃とちん
 小屋こま
 めん人け
 ぬとよま
 へんにま
 あり



牛室

牛とく
 ところ積と
 する
 室
 倉
 五穀を
 おさる家
 慶の総名
 を倉や
 りなり



廩くら 壁へい

なぐやねとら
わるとよふり
廩倉ハ五穀
と蓄る所の
お名ちりも
いへり

庫くら 兵へい

金帛きんぱくとを
蓄りつとよふ
書といふを
文庫と庫ハ
湯武のとき
五庫と築て
五兵と蓄る

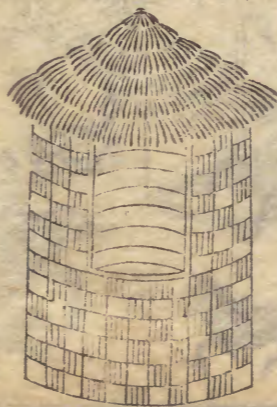


廩くら 礎いし

なぐやねを
さくらとよ
いゆりな
はつたり

園くら 丸まる

建て若さ
みくらとよ
廩の園を
と園と丸



京くら 於お

なりとよふ又
廩の字つら
京ハ高大乃
義とゆつ
いへり

賣くら 細こ

小して腹大
よしておへる
と穿て出入
しつといへり
空若し似り



園くら 牛うし

豚の類とよ
とあるといへり

登くら 司し 登とう

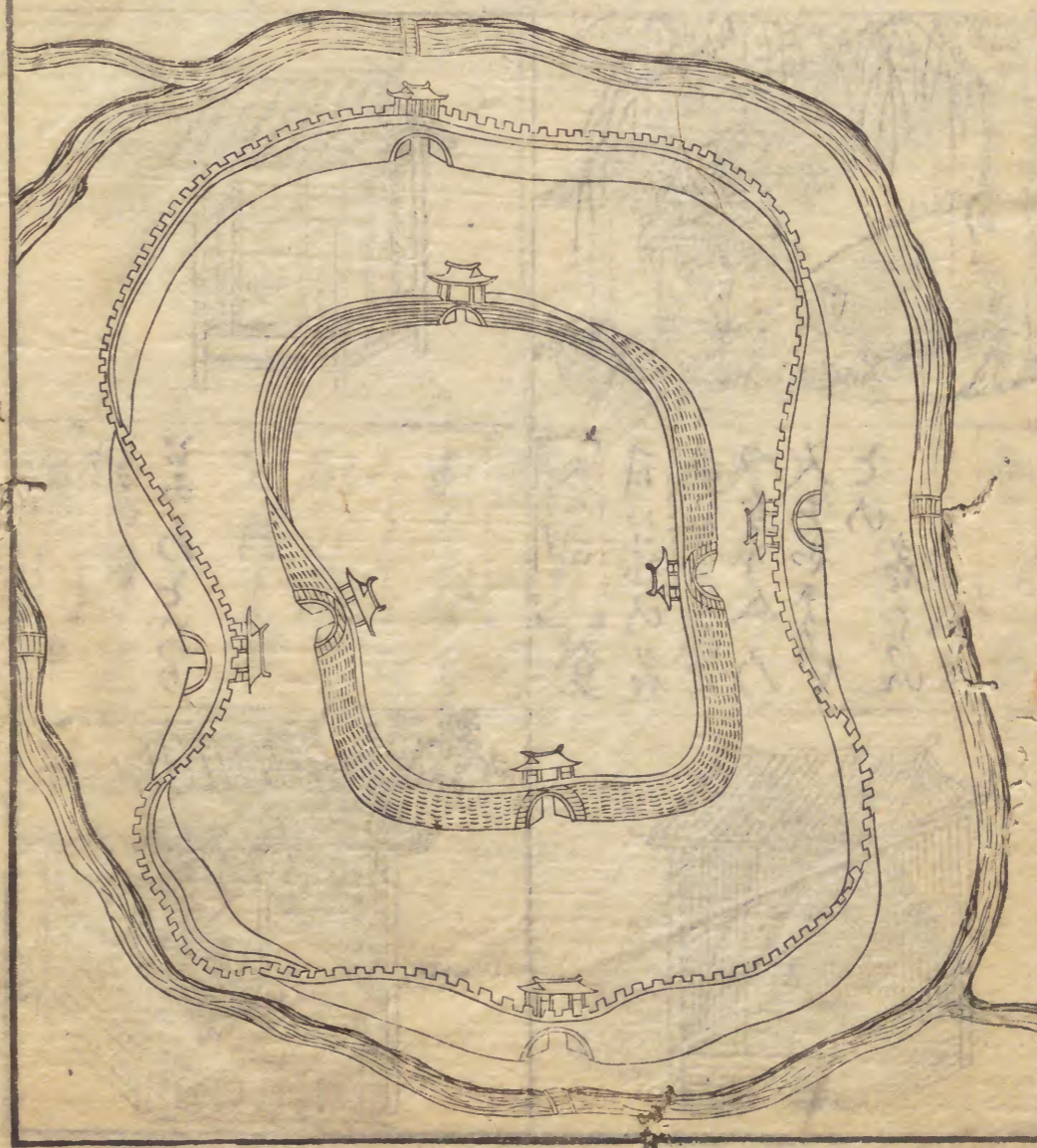
司の林の名
登登といへり
つり今乃
人あやまり
この名を



郭

城の介と郭
といふは
縣といふ城と
つらなれば
よりて君を
衛つるは
わが縣を城
といふなり
城にハ君あり
郭ハ君あり
いふなり
○傾城破殿の石
不とくも
ことし四方
くもわりぬ
てててに
いふと郭とい

唐土訓読國書卷三



城

城ハ盛なり
とてさうりに
國勢と云ふ
故なり城上の
垣と睥睨と
やま孔の中
より非を
睥睨するを
いふなり
中濠といふ
七女子の夫
夫よおとら
いふなり

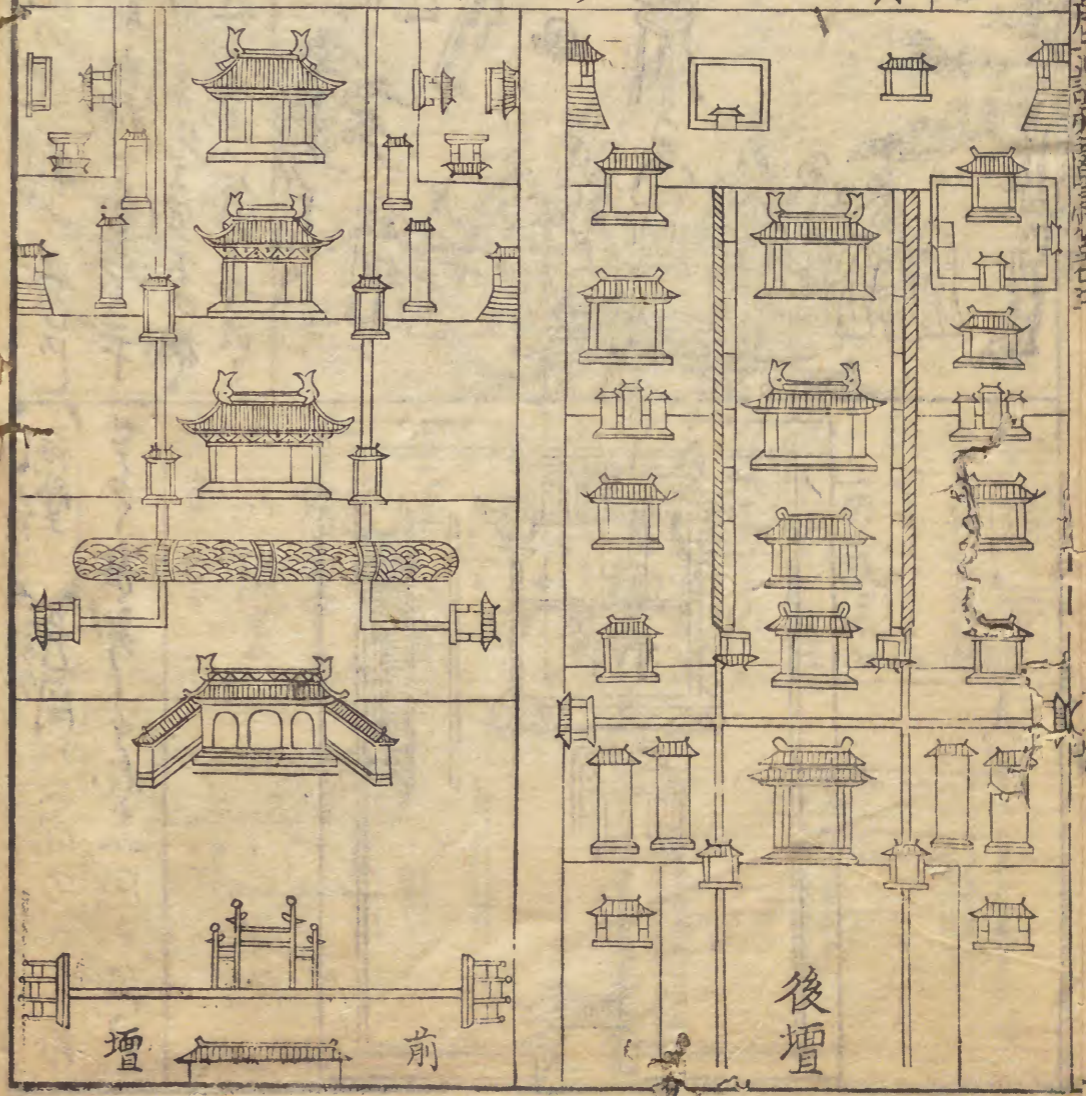
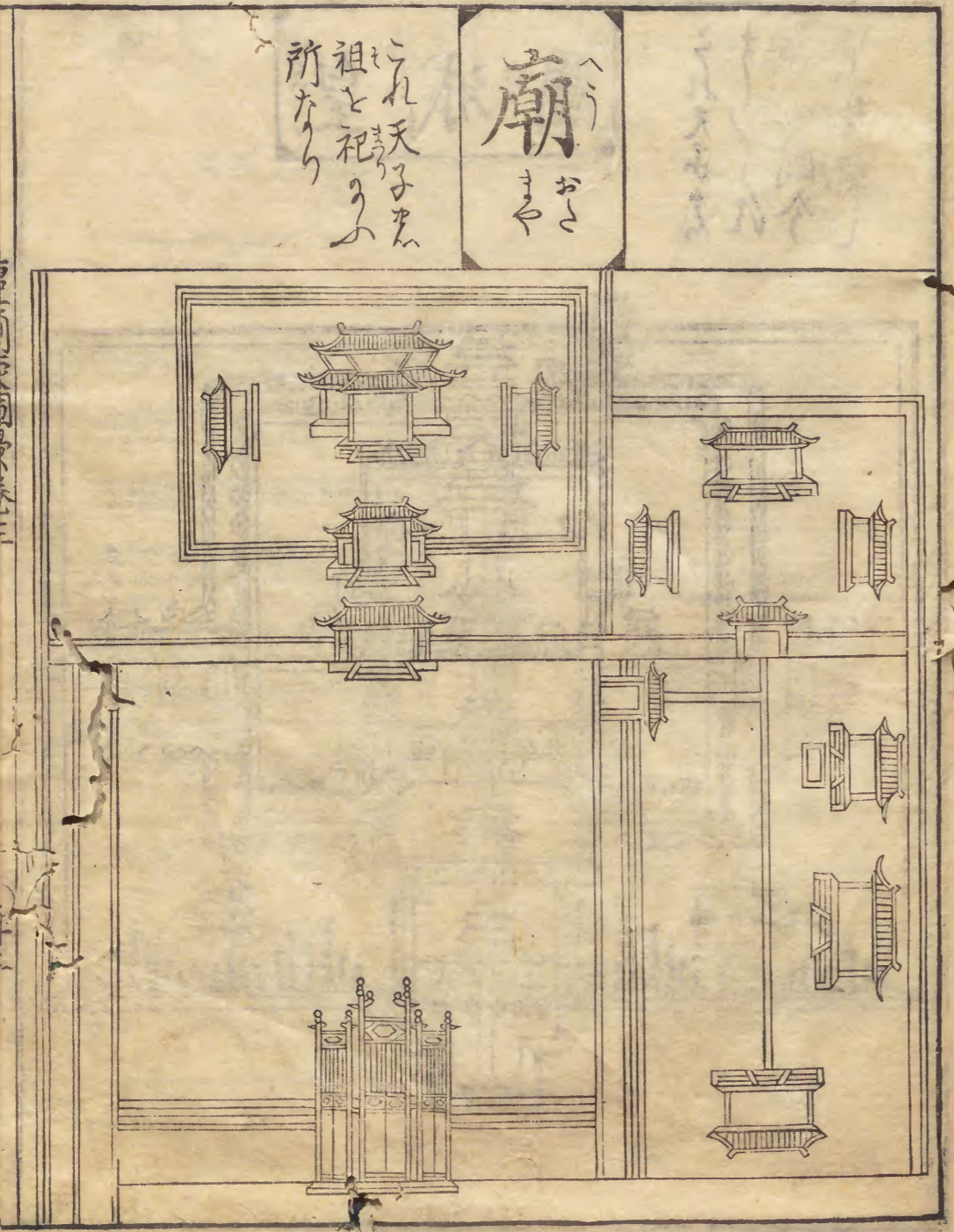


夫子宮壇前
後圖

先聖孔子の廟
充外仙源卿の
西二里西の
魯城に接す
二百歩闕
里の舊宅なり
殿門の階楹ハ
をくく記
跡圖闕里志
宮にカマ
アムハ
果の
あは

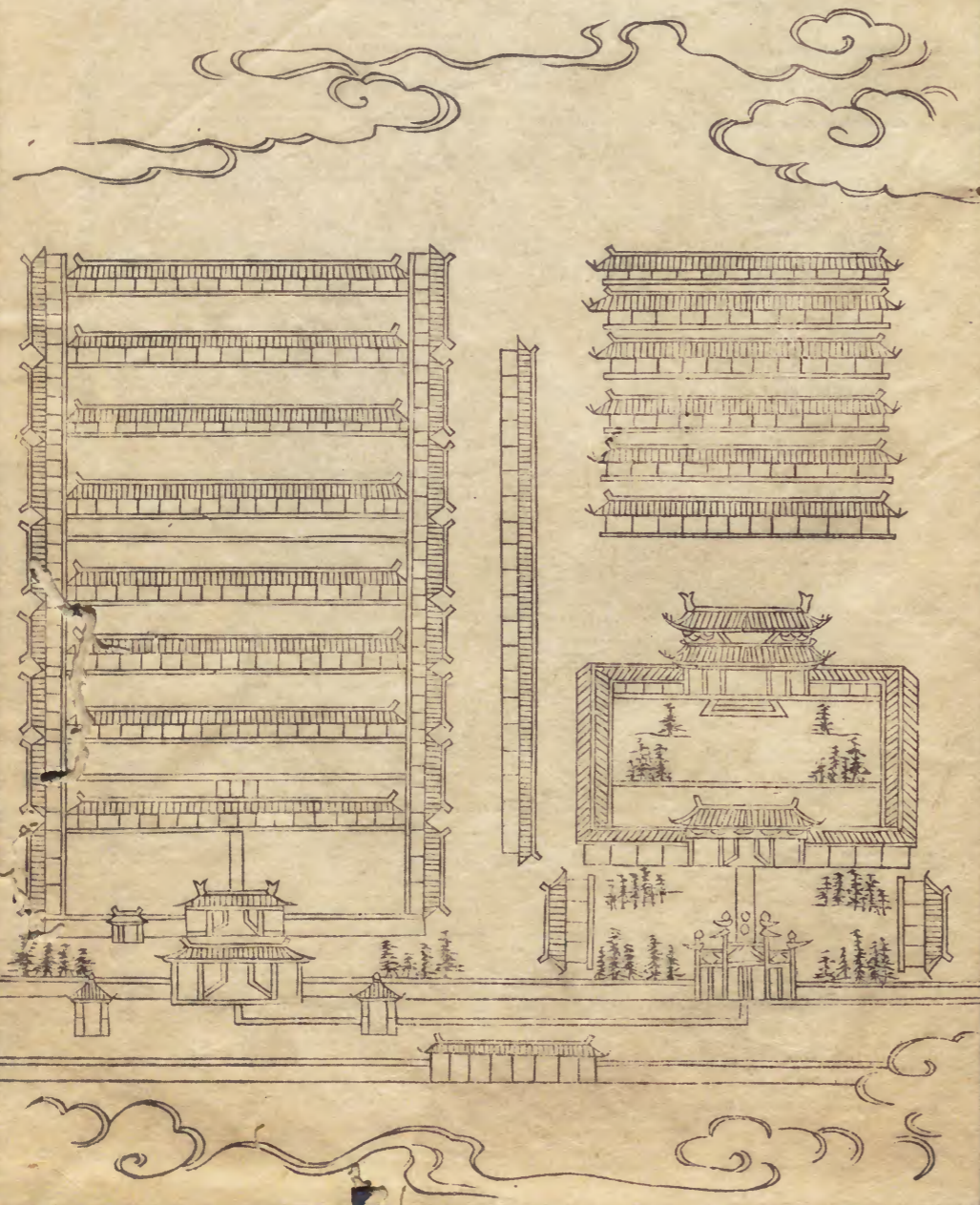
廟
おと
ま

これ天子
祖と祀
所なり



大學校學所

大學校

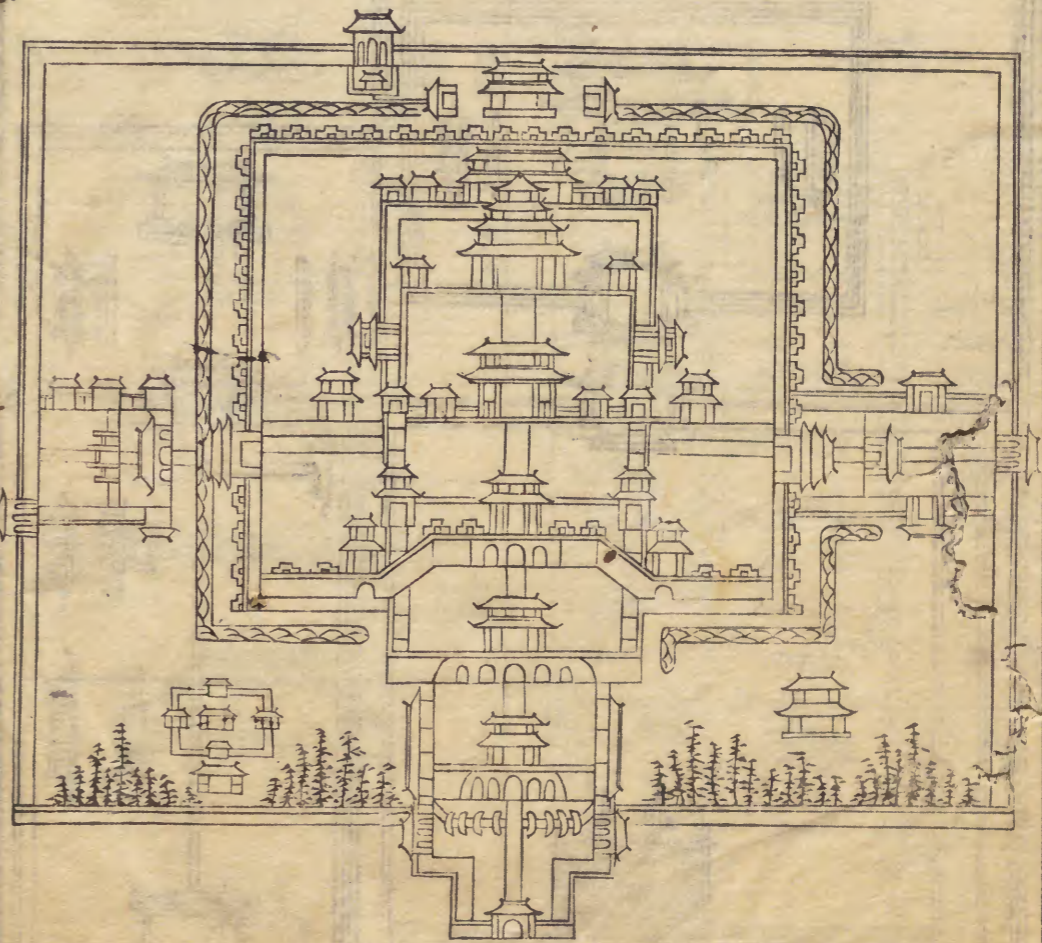


皇土川上家司馬長三

十二

皇城圖

これ天子の
まじりの
都の園今
上禁裏に



唐土計家園景卷三

十一

